

## 29年11月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成29年 11月1日～ 29年11月10日

## 2. 調査実施方法

全国の木材チップ工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
11月分の回答企業数は10社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

## (1) チップ用国産原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目	29/11月	12月	30/1月	
入荷動向	スギ・ヒノキ	0.0	6.3	6.3
	マツ	△ 16.7	△ 22.2	△ 16.7
	広葉樹	△ 20.0	△ 30.0	△ 30.0
消費動向	スギ・ヒノキ	△ 7.1	14.3	7.1
	マツ	△ 12.5	△ 12.5	△ 12.5
	広葉樹	△ 22.2	△ 11.1	△ 11.1
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 18.8	0.0	0.0
	マツ	△ 27.8	△ 22.2	△ 27.8
	広葉樹	△ 30.0	△ 30.0	△ 30.0

・チップ用国産原木の入荷動向は、スギ・ヒノキは11月の横ばいから12月、1月は増加に。マツ、広葉樹とも3カ月連続減少。

・消費動向は、スギ・ヒノキは11月の減少から12月、1月は増加に。マツ、広葉樹とも3カ月連続減少

・在庫動向は、スギ・ヒノキは11月の減少から12月、1月は横ばいに。マツ、広葉樹とも3

## (2) チップ用国産原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	29/11月	12月	30/1月
スギ・ヒノキ	14.3	14.3	14.3
マツ類	12.5	12.5	12.5
広葉樹	5.6	5.6	5.6

・チップ用国産原木の購入価格動向は、スギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも横ばい推移。

## モニターからのコメント

## (原木荷動き)

・スギ・ヒノキ、マツの原木は、国有林システム材、森林再生事業材の入荷により横ばい傾向。広葉樹は季節的要因により仕入減少。在庫はスギ4.5→4.5カ月、マツ2.5→2.0カ月、広葉樹0.5→0.3カ月。

・仕入は針葉樹材の確保が難しい状況である（関東）。

・仕入、消費、在庫とも変動なし。買材の割合大きいため荷動きの動向がつかみ難いが、横ばいと見通す（中国）。

・天候の影響があり、当月仕入れは横ばい。翌月、翌々月はやや増加見通し。消費も仕入同様（四国）。

・仕入は全樹種とも天候が良ければ順調な入荷になると予想。消費は計画されていた11月の年次点検はあるものの、できるだけ量のチップ在庫を確保するため、それほどの減産にはならない。在庫は計画通り通常日並みの生産をすることになったため、増えることはなかった（九州）

## (原木価格)

・スギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも価格変動なし（東北）。

・スギ、マツは木質バイオマス燃料の増加に伴い上昇傾向。広葉樹は原料の減少に伴いやや上昇（東北）。

・原木価格変動なし（中国）。

・全樹種で変動なし（四国）。

・価格改定はない（九州）。

・スギ・ヒノキ、マツの原木は基本的に購入しない。広葉樹原木価格は横ばい推移（九州）。

## 29年11月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 2

## 4. 調査結果の概要

## (1) 木材チップの荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/11月	12月	30/1月
生産動向	スギ・ヒノキ	0.0	8.3	8.3
	マツ類	△ 25.0	△ 21.4	△ 21.4
	広葉樹	△ 35.7	△ 21.4	△ 21.4
出荷動向	スギ・ヒノキ	7.1	14.3	14.3
	マツ類	△ 18.8	△ 18.8	△ 18.8
	広葉樹	△ 33.3	△ 22.2	△ 22.2
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 10.0	0.0	0.0
	マツ類	△ 41.7	△ 33.3	△ 33.3
	広葉樹	△ 21.4	△ 28.6	△ 28.6

・スギ・ヒノキ木材チップの生産動向は11月の横ばいから12月、1月は増加に。マツ類、広葉樹とも3か月連続減少。

・スギ・ヒノキの出荷動向は3か月連続増加。マツ類、広葉樹とも3か月連続減少。

・スギ・ヒノキの在庫動向は11月の減少から12月、1月は横ばいに。マツ類、広葉樹は3か月連続減少。

## (2) 木材チップ出荷価格動向(自社サイロ下渡し)W

品目	29/11月	12月	30/1月
スギ・ヒノキ類	0.0	0.0	0.0
マツ類	0.0	0.0	0.0
広葉樹	△ 6.3	0.0	0.0

・木材チップの出荷価格動向は、総じて横ばい推移。

## モニターからのコメント

## (木材チップ荷動き)

・当月は、製紙会社の広葉樹チップ受入れ減のため生産量も減となる。製紙会社の広葉樹チップ受入れ数量が減ったため、当月は出減少（東北）。

・スギ・ヒノキは類の出荷量は、広葉樹の出荷量減少に伴いやや増加。広葉樹は原材料の入荷減により出荷量も減少（東北）。

・広葉樹チップについては、製紙会社によってはピーク時に比べ50%減である（関東）。

・生産、出荷、在庫とも変動なし（中国）。

天候の影響があり、当月仕入れは横ばい翌月、翌々月はやや増加見通し。出荷は一部製紙会社にて受入れ減はあるが、製紙、ボード、燃料等の受け入れ可。生産したものは出荷問題なし（四国）。

・生産、出荷とも通常月並みの予定。チップ在庫は持たない（九州）。

・スギ・ヒノキ、マツのチップは基本的になし。広葉樹は11月も原木不足のため生産、出荷は少ないが、前年度並みである。製紙会社の受入れ制限はない（九州）。

## (木材チップ価格)

・スギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも価格変動なし（東北）。

・広葉樹チップは、値下げされた状況が来年3月頃まで続きそうである（関東）。

・スギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも変動なし（中国）。

・全樹種で変動なし（四国）。

・全樹種価格変動はない（九州）。

・広葉樹チップ価格は横ばい推移（九州）